

ドイツの小学校では、理科の学習時間が日本の半分しかありません。これはにわかには信じられないでしょう。ドイツでは、日本の子どもに比べると母国語の学習負担が非常に少ないために、国語の時間は少なく、理科の学習が多いのではないかと思っていました。

ところが、ドイツでは何と日本の半分しか理科の学習時間がありません。一方、国語の学習には、日本の二倍以上の時間を費やしているのです。ドイツの一週間の授業時間が24時間あるとすると、月曜日は国語が3時間もあります。算数が1時間。これで一日の授業が終わります。

火曜日は国語の時間は2時間、算数が1時間、音楽が1時間。水曜日は国語が2時間あって、算数が1時間、体育が1時間。木曜日は月曜日と同じで、金曜日は水曜日と同じです。土曜日は国語を2時間、算数と図工を1時間ずつです。

つまり、国語の授業を毎日二時間から三時間もやっているということになります。ドイツの小学校では、低学年の三年間は国語を重視した授業になっています。算数の授業は毎日1時間ありますから、残った時間はたったの4時間しかありません。そして四年生になって初めて理科の授業が始まるのです。これがドイツの小学校教育の実態です。

いかに国語の授業を重視しているかがおわかりでしょう。理科も社会科も算数も、国語力をしっかりと身につけなければ、教育効果が低いと考えているのです。

たしかに国語力の低い子どもが理科を勉強しても吸収するものが少ないのです。教科書の内容が理解できないことが原因です。

日本では全教科の四分の一の時間が国語の授業ですが、ドイツでは二分の一です。つまり国語をしっかりと学ぶことが、将来、算数や理科を学ぶときに、大いに役立つと考えているのです。言葉が曖昧なままではきちんとした学習はできないということがよくわかっているのです。